

平成 30 年 7 月 吉日

報道関係各位

社会医療法人博愛会 相良病院 理事長 相良吉昭

乳がん患者さんを対象とした「遺伝子診療部」開設

このたび相良病院では、遺伝子レベルでの乳がん診療を総合的に行うため、2018年7月より「遺伝子診療部」を開設しました。

従来の研究で、がん細胞の発生には特定のがん関連遺伝子の変異が密接に関係することが分かっています。通常は様々な原因（加齢や放射線などの刺激など）でそうした遺伝子変異が生じますが、生まれつき特定の遺伝子変異をもつことで生じる遺伝性腫瘍疾患の存在も知られています。相良病院では、2008年12月に九州地方で初めて遺伝相談外来を設置し、主にBRCA1/2遺伝子の変異を生まれつきもつ遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）の方を対象に、遺伝カウンセリングや遺伝子検査を行なってきました。この10年に渡り、HBOCの方々について乳がん・卵巣がんの早期発見を目的に検診（サーベイランス）プログラムを作成し、乳がん予防を目的にリスク低減手術（予防的乳腺全摘術）を行える態勢を整えてきたことで、HBOCの方々に厚みのある診療を提供できるようになりました。

一方、現在まで200以上のがん関連遺伝子が報告されており、がん細胞の中での遺伝子変異の内容が臨床経過に大きく関係することが分かってきました。とくに近年、遺伝子変異に応じて高い治療効果が期待される分子標的治療薬が数多く開発されるようになり、がん細胞の遺伝子検査を治療に応用する”プレジジョン・メディシン（邦訳：精密医療・高精度医療）”が現実のものとなってきました。プレジジョン・メディシンはがん診療の革新につながると期待されており、厚生労働省は現在全国で提供できる体制の構築を進めています。相良病院でもこのプレジジョン・メ

ディシンを提供するため、がんゲノム医療外来を立ち上げることにしました。

プレジジョン・メディシンで使用するがん細胞の遺伝子検査によって、それまで判明していなかった遺伝性腫瘍疾患が分かることがあります。プレジジョン・メディシンを押し進めるにあたり、遺伝子レベルでの診療という点で遺伝相談外来とがんゲノム医療外来の間にシームレスな体制構築が必要と判断し、このたび「遺伝子診療部」の開設を決めました。

遺伝相談外来の機能充実を図るべく、四国がんセンターの認定遺伝カウンセラーによるカウンセリングも開始致します。奇しくも、HBOCの方に生じた転移性乳がん（BRCA1/2遺伝子変異を有する乳がん）に効果がある分子標的治療薬（オラパリブ）が同時期に保険承認されました。この薬は遺伝相談外来とがんゲノム医療外来にまたがる分野での治療薬であり、「遺伝子診療部」の役割が大きくなっていくと考えております。

今後、がん診療はますます遺伝子レベルでの診療が進んでいくと見込まれていますが、相良病院は特定領域がん診療連携拠点病院として、常に最先端の乳がん診療を提供できるよう診療の充実に取り組み続けていきます。

がんゲノム医療外来

担当：金光秀一（乳腺科）・太良哲彦（腫瘍内科）・深江亜衣（担当看護師）

概要：がん細胞について遺伝子パネル検査を行い、効果が期待される治療薬を提示

採用検査：PleSSision検査（三菱スペース・ソフトウェア社提供）

がん関連遺伝子 160種をターゲットとする遺伝子パネル検査

患者さん向け お問い合わせ・ご予約

がん相談支援センター TEL 099-216-3360（受付時間9：00～17：30）

遺伝相談外来

担当：馬場信一（乳腺科）・川野純子（乳腺科）・金子景香（認定遺伝カウンセラー）

平松明子（担当看護師）

概要：1) 遺伝性乳がんのリスクがある方への相談・カウンセリング

2) 遺伝学的検査（生殖細胞系列の遺伝子検査）の実施

3) ハイリスク症例に対する対応*の提言

* BRCA1/2遺伝子変異保因者への対応

・ダイナミックMRIなどを用いた検診（サーベイランス）プログラム

・リスク低減手術（予防的乳房切除術など）

患者さん向け お問い合わせ・ご予約

遺伝相談外来 担当看護師 TEL 070-5402-1800（受付時間10：00～16：00）

取材に関するお問い合わせ

社会医療法人博愛会 事業本部 担当：上山

Mail info@sagara.or.jp TEL 099-224-1811